

平成30年度 障害当事者部会の活動について

◆実施状況

第4回(平成31年1月23日(木))…座談会形式

- 平成30年度障害当事者部会広報誌vol.3の発行、内容について  
(部会終了後、文京区民センター1階 ソーシャルカフェ・サインウィズミーにて有志の参加者で交流会実施)

第5回(平成31年3月6日(水))…会議形式

- 平成30年度障害当事者部会広報誌vol.3(案)の内容確認、送付先について
- 障害当事者部会委員になって思ったこと、感じたこと(今任期3年間の振り返り)

◆内容

第4回

【平成30年度障害当事者部会広報誌vol.3の発行、内容について】

- 広報誌の内容・構成を検討。vol.2同様A3用紙、両面印刷、中折でA4用紙4ページ分で作成していくことになる。
- 障害当事者部会の“3年間の軌跡”として主な活動記録を年表形式で作成する。事務局にて作成。
- ヘルプマークや補助犬、愛の手帳を持っていると受けられるサービスについて等、委員からのメッセージとして掲載する。各部会委員より各担当の文章を寄稿する。
- 広報誌vol.3は従来の送付先に加え、特別支援学級のある教育機関等へも送付することを検討。
- 上記の内容で広報誌vol.3の第1稿を事務局にて作成、第5回部会内で最終確認をしていく。確認内容を修正、最終稿を事務局にて作成し、配布していく。

【区民センター1階サインウィズミーにて交流会】

- 部会委員同士の交流を深め、聴覚障害の方の就労の場を見学及び聴覚障害者との交流を行う。

第5回

【平成30年度障害当事者部会広報誌vol.3(案)の内容確認】 ※別紙参照：広報誌vol.3(案)

- 内容的にはすっきりまとめられており見やすい。しかし所々使用している配色が見ずらいため、色の変更をしたほうが良いという意見あり。読者の配慮として、文京区カラーユニバーサルデザインを含む情報提供ガイドラインを参考にしたほうが良いのではないかな。
- 年表形式でまとめた活動記録において、時系列を整えた上で内容を記載できるよう配置等を再構成する。
- 視覚障害者への合理的配慮を検討していく必要がある。障害当事者部会であれば、なおさら各障害に対しての配慮を考えて作成したほうが良い。例えば紙面だけではなく、広報誌の内容を音声データとして区のホームページに掲載するなどの対応方法も考えていく必要がある。また断片的な情報とならないよう、活動記録や年表などはストーリー性を持たせた構成にできると良いだろう。写真や画像の内容についても、イメージが浮かびやすい表現が出来ると良い。過去の広報誌も区のホームページに掲載してもらえると良い。その際は上記同様音声データなども掲載してほしい。今年度どの程度まで対応できるかわからないが、障害福祉課とも相談しながら対応を検討していく。出来なかった内容についても、今後も継続して検討し、体制を整えていく。
- 次年度以降、委員の活動の様子を積極的に写真やデータに残し、広報誌発行の際に掲載できると良いだろう。

## 【広報誌の送付先について】

- 新たに加えたい送付先(別紙広報誌vol.2配布先リスト参照)
  - ・ 他区や東京都の自立支援協議会
  - ・ 都内、都外も含めた各区市町村の障害当事者部会
  - ・ 他区の障害福祉課
  - ・ 区内の民生委員
  - ・ 区内の商店等
  - ・ 区内の医療機関
  - ・ 教育機関、特別支援学級や特別支援学校等
- 上記の意見を参考にし、事務局が対応できる範囲も考慮しながら配布先について増やしていく。
- 障害当事者と接点の少ない方々に、広報誌を通じて障害当事者部会の活動を知ってもらうことが重要なのではないかと。それが障害当事者部会の下命事項である、障害当事者からの情報発信に繋がると思う。そのような方々へ広報誌を見てもらう工夫が必要であろう。また全国の障害当事者部会に活動内容を知ってもらい、障害当事者部会同士が支え合いをしたり、これから障害当事者部会を作りたいという自治体などに参考にしてもらえると良いのではないかと。

## 【障害当事者部会委員になって思ったこと、感じたこと(今任期3年間の振り返り)】

- ・ 部会委員だけでは活動の範囲が限定されてしまっていた。部会運営において事務局の協力が大きかった。障害当事者部会委員の自主的な活動、委員を中心に人との関わりの輪をつくるようなアクティブな活動が今後の課題であると感じている。障害当事者部会を支えてもらうサポーターなどを募るのも術だと思ふ。また活動をしていくにも予算の問題もあり、その点も検討していく必要があるかもしれない。自立支援協議会の障害当事者部会としてどのような会議体にしていくのか、どのような活動を行っていきたいのかということを探索してきた3年だった。しかし自分達で出来る範囲のことは楽しく活動が出来たし、また多くの学びもあり良かった。
- ・ 委員の皆さんとお話が出来て楽しかった、勉強になった。
- ・ 文京総合福祉センター祭りへの参加が良い思い出である。
- ・ 障害者の方と関わることで他の障害のことを知ることができ、勉強になったのと同時に、励みにもなった。
- ・ 障害当事者部会として障害者週間のイベントに参加してみてもどうだろうか。
- ・ 障害当事者部会として、事務局に頼り過ぎないように「部会の自立」も考えていくことが課題であると感じている。その自立を考えるのは、障害当事者部会の部会委員である障害当事者が決めていくことだと思ふ。

## ◆次年度に向けて

次年度の障害当事者部会は新たな委員が加わる予定である。これまで部会で取り組んできた事や話し合ってきた事、築いてきた関係性を継続しながら、より一層障害当事者が、主体的に活動が行えるよう検討を重ねていく。同広報誌についても発行を継続し、課題点を改善していきながら障害当事者部会ならびに障害についての普及・啓発などの情報発信に努めていく。